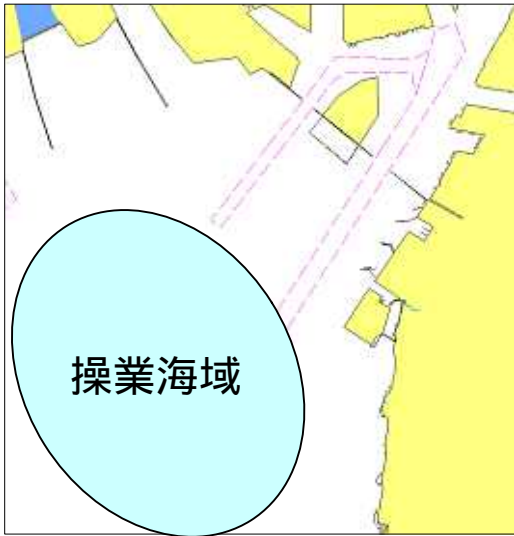
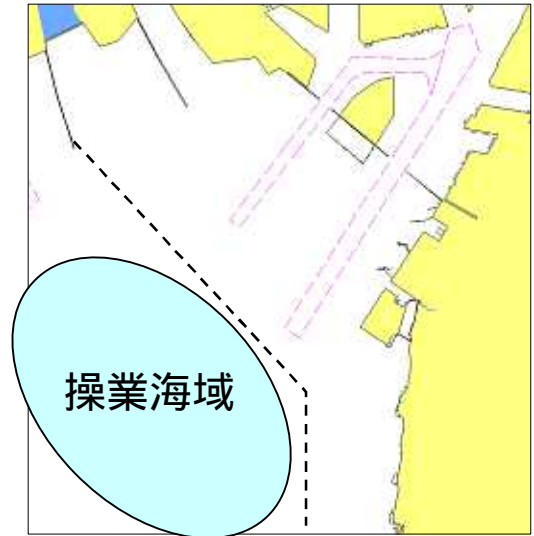


# 名古屋港付近における漁業実態

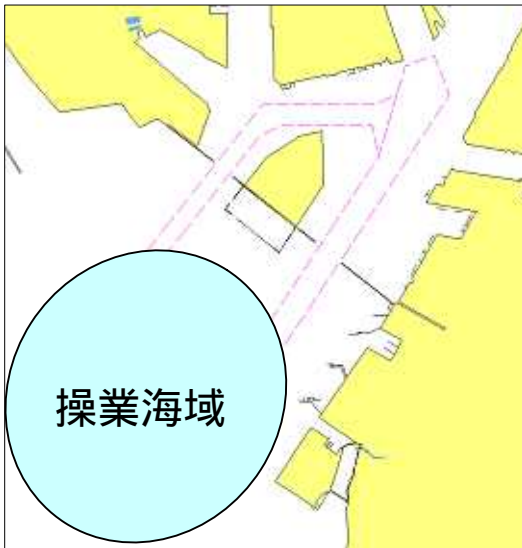
1、船びき網漁業(いかなご・ぱっち)



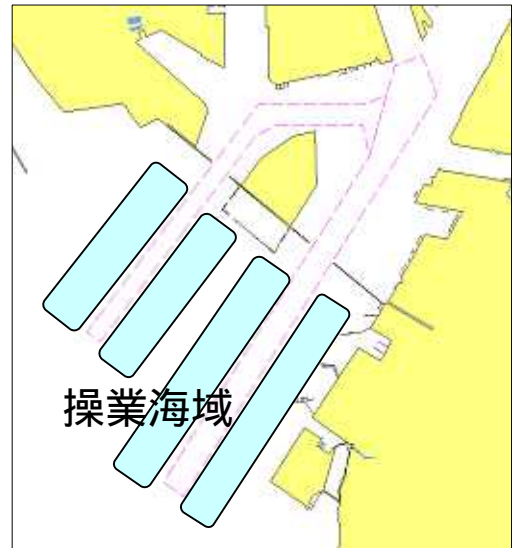
2、底びき網漁業(まめ板)



3、底びき網漁業(貝けた)

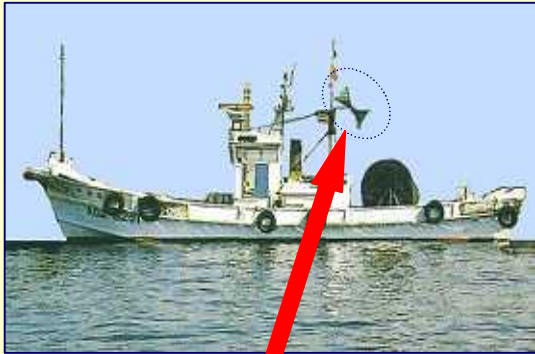


4、かご漁業

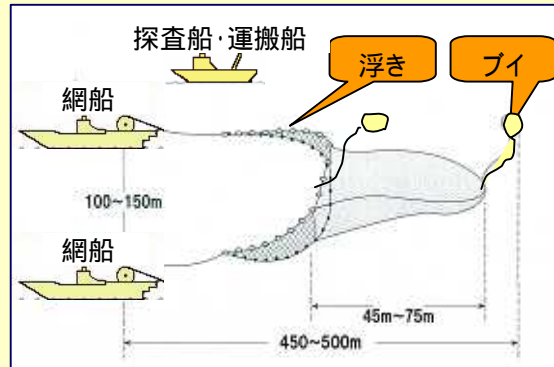


漁業種類	漁船規模	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	時間帯	
いかなご	15トン未満	← 11/1 ~ 6/20 →												←	昼間
ぱっち	20トン未満	← 1/1 ~ 12/31 →						いかなご	← いわし →						昼間
まめ板	15トン未満	← 1/1 ~ 12/31 →												昼間夜間	
貝けた	15トン未満	← 12/1 ~ 6/30 →											←	昼間	
かご	5~10トン	← 1/1 ~ 12/31 →												夜間	
							■ 最盛期								

## 機船船びき網漁業(いかなご・ぱっち)



作業中は鼓形形象物を掲げています。



曳網や漁網は視認できませんが、浮きブイが確認できます。

**【概要】**漁船2隻が対になり長さ最大500メートルに及ぶ網漁具を曳網し、上層及び中層付近を回遊しているいかなごやいわしを漁獲する漁業です。曳網する網船2隻のほかに探査船や運搬船から成る船団を組んで操業しています。探査船は、日出前からいかなごの群れを探して回り、群れが見つかったら日出後から船団で操業を開始します。いかなご最盛期の春には、伊勢湾・三河湾の漁船数十隻～百隻以上が群れを求めて同じ海域に集結し、集団操業が行われます。

**【漁船】**おもに網船2隻(20トン未満)、探査船1隻(5～6トン)及び運搬船1隻(5～6トン)で船団を組んでいます。

**【特徴】**網船は、後部甲板に大型ネットローラーを備えており、マストには鼓形形象物や赤や白などの旗を掲げています。曳網や漁網は視認できないですが、漁網の所々に浮きや漁網末端にブイが取り付けられています。曳網速力5～6ノット、1回の操業時間は約1時間。

**【漁獲物】**いかなご・いわし

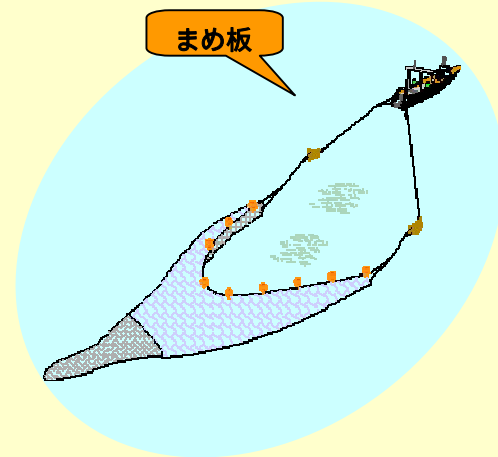
**【漁場】**名古屋港沖合い(伊勢湾第6号灯浮標や伊勢湾シーバース付近での操業が度々認められます。)

**【漁期】**いかなご(11月1日～6月20日 最盛期3月～5月)、いわし(1月1日～12月31日 最盛期7月～10月) 日出～午前中 殆ど正午までに終了

### 【注意事項】

- 1、漁船群の中には無理に入らず、早期に避航して下さい。
- 2、漁具の浮きやブイを早期発見するため、厳重な見張りをして下さい。
- 3、2隻で対になり曳網している網船の間は、絶対に航行しないで下さい。
- 4、網船の後方を横切る場合は、船尾から十分な距離を離して下さい。
- 5、名古屋港海上交通センターの漁船い集情報を確認して下さい。

## 小型機船底びき網漁業(まめ板)



**【概要】** 網口を開くための開口板を取り付けた網漁具を海底に下ろして漁船1隻で曳網し、海底に生息する魚介類を漁獲する漁業です。漁具は長さ300メートル程度になりますが、まめ板は中層付近、漁網は海底に沈んだ状態で操業されます。愛知県の代表的な漁業として、伊勢湾・三河湾では通年にわたり昼間夜間とも盛んに操業されています。操業は単独ですが、僚船などが同じ海域に集まり、十隻程度の集団で操業をしていることがあります。

**【漁船】** 1隻(15トン未満)に乗組員1~2名が乗船しています。

**【特徴】** 漁船は、後部甲板に大型ネットローラーを備えており、船体両舷からそれぞれ1本、計2本の曳網を繰り出しています。漁具には、目印のブイなどは特に付いていません。なお、小型機船底びき網漁船で、まめ板網のほか貝けた網も操業する漁船は、船尾甲板に櫓が備えられています。曳網速力4~6ノット、1回の操業時間は1時間程度。

**【漁獲物】** カレイ、アナゴ、スズキ、シャコ、エビ、ガザミ、アサリ、バカガイ等

**【漁場】** 名古屋港沖合い(伊勢湾灯標と揖斐川口灯台を結んだ線以南での操業となります。)

**【漁期】** 1月1日~12月31日 最盛期4月~10月 昼間・夜間

### 【注意事項】

- 1、夜間など曳網中が見分けがつかない場合は、早期に避航して下さい。
- 2、海底の地形に応じて曳網しているため、直進しないことがあります。
- 3、漁船の後方を横切る場合は、漁具は海底に沈んでいますが注意して下さい。
- 4、乗組員1~2名であり、周囲の見張りが十分でないことがあります。

## 小型機船底びき網漁業(貝けた)



貝けた網漁具



**【概要】**けた・爪を取り付けた網漁具を海底に下ろして漁船1隻で曳網し、海底に生息する魚介類を漁獲する漁業です。漁具は、長さ30～50メートル程度を繰り出し、貝けた網は海底に沈んだ状態で操業されます。愛知県の代表的な漁業として、伊勢湾・三河湾では冬から初夏の昼間に盛んに操業されています。操業は単独ですが、僚船などが同じ海域に集まって操業していることがあります。

**【漁船】**1隻(15トン未満)に乗組員1～2名が乗船しています。

**【特徴】**漁船は、船尾甲板にローラーと貝けた網を吊上げるための檣が備えられており、船尾中央から1本の曳網を繰り出しています。漁具には、目印のブイなどは特に付いていません。曳網速度4～6ノット、1回の操業時間は1時間程度。

**【漁獲物】**カレイ、アナゴ、スズキ、シャコ、エビ、ガザミ、アサリ、バカガイ等

**【漁場】**名古屋港内～沖合い(ポートアイランド沖での操業が度々認められます。)

**【漁期】**12月1日～6月30日 最盛期4月～6月 昼間

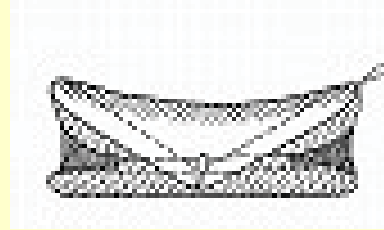
### 注意事項

- 1、曳網中は、早期に避航するようにして下さい。
- 2、海底の地形に応じて曳網しているため、直進しないことがあります。
- 3、漁船の後方を横切る場合は、漁具は海底に沈んでいますが注意して下さい。
- 4、乗組員1～2名であり、周囲の見張りが十分でないことがあります。

# かご漁業



かご漁具



**【概略】** 餌を入れた籠を綱に幾つも取り付けて海底に沈め、夜間数時間にわたり設置し、海底に生息するアナゴやカニなどを誘い込んで漁獲します。籠漁具は、日没前に投入を始めて最大500個を場所を変えて設置し、夜間のうちに適宜揚収する形態で操業されています。漁船は、漁具設置後、一旦その場を離れますが、設置した籠の周辺に漂泊していることもあります。伊勢湾・三河湾では通年にわたり夜間に操業されています。数隻の漁船が、同じ海域に多くの籠漁具を設置することがあります。

**【漁船】** 1隻(5～10トン)に乗組員1～2名が乗船しています。

**【特徴】** 漁船は、船首甲板に小型ローラーを備えている以外、目立った装備はありません。投入した籠漁具には、連結綱の両端及び所々にブイ(簡易灯火付き)が設置されています。1回の操業時間は2～6時間程度。

**【漁獲物】** アナゴ、カニ

**【漁場】** 名古屋港内(東航路及び西航路の航路沿いでの操業が時折認められます。なお、稀に高潮防波堤内側で操業していることがあります。)

**【漁期】** アナゴ(1月1日～12月31日)、カニ(1月1日～12月31日 最盛期7月～10月)  
夜間

## 【注意事項】

- 1、設置された漁具を認めた場合は、避航して下さい。
- 2、ブイ(灯火付き)は見づらいことがあるため、見張りには注意して下さい。
- 3、限定された海域に集中して漁具が設置されることがあります。
- 4、気づかないうちに投入されますので、十分な情報が得られないことがあります。
- 5、乗組員1～2名であり、周囲の見張りが十分でないことがあります。